

新・切手の日誌

# Stamp Diary



---

2011年10月号

10月2日（1974年から始める）

---

正直、困った。楽しみにしていたイギリス切手なのに、ガサッと袋から出して年代を調べ始めてみたが、なかなか私に訴えてくるものがない。7月に試行を変え、アメリカ→フランス→オーストラリアと4ヶ月目で少し暗礁に乗ってしまいそう（かも）。

むかしの切手は年代の記述がないので、特定が難しい。しかも、イギリスなど切手を発明した国だからと国名すら載せない。いつまでもポンドを使い続け、ユーロを導入しない国らしい。こういう姿勢は個人的には嫌いではない。

ヒントは額面の金額であった。値が大きいものほど、最近に近くなる。例えばこの2枚、4+1/2ペンスで1974年から現れた（多分）。役にも立たなさそうだが、自分にとっては大きな発見と、少し整理に気合いが出る。こうして1枚1枚、年代とシリーズ名が特定できてゆく。

これはナイト4枚ものの1枚。残りは、5+1/2P, 8P, 10Pである。



これはチャーチル4枚もので、やはり残りは、5+1/2P, 8P, 10Pである。こういう"The British"なお国を象徴する人物切手は（実に）無条件に好き。



残りの3枚は、同じチャーチルでもシルクハットにトレードマークの葉巻、壮年期、青年期でどれも帽子をかぶってなかなかカッコいい。好きだから全て揃えたいのに、よくよく考えてみると、そもそもの流通している枚数が少ない気がする。

現在日本で言えば、使用頻度が高そうな50円（はがき）80円（定形）90円（定形）110円(?)という感じであろうか。こうして4-5枚セットで発行されるケースが多く、各セットのうちでも流通枚数にバラツキがありそうだ。そんなネガティブな閃きが、私の整理意欲に水を差す。

1960年代も何枚かあるが、アメリカのときと異なり妄想がまとまらなかったのも、1974年から始める。

10月8日（1980年代前半）

---

まずこちら、テキスタイル・シリーズ 15+1/2P, 19+1/2P, 26P, 29Pの4枚ものの1枚でwikipediaによると「デザインの父」と呼ばれたウィリアム・モリスのデザインによる柄。4枚揃うと、この時代（1982年）における日本切手とは全く異なる味わいを出しているのが感じられる。

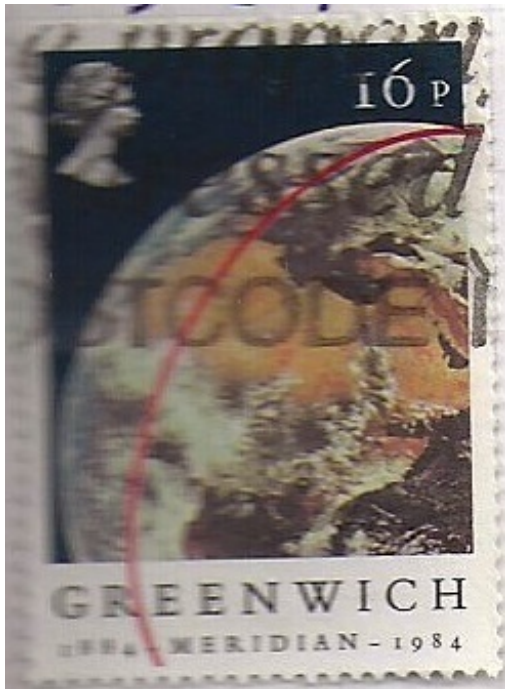


次のこちらは1983年のクリスマス切手 12+1/2P, 16P, 20+1/2P, 28P, 31Pの5枚ものの2枚である。何気に絵柄が古めかしく、それでいて何気にお茶目で気に入っている。

イギリスのクリスマス切手は他国に比べ、絵柄の味わいが奥深いと思うが、いかがだろうか？  
絵が持つ意味を深読みしたくなる。



今日の最後はこちらで、1984年発行のグリニッジ子午線の4枚もの 16P, 20+1/2P, 28P, 31P で、赤線は消印ではなく図柄。子午線を意味しているに違いない。こちらは地球に赤線で、まだ子午線のイメージ湧いてくるが、他の3枚など全く普通の図柄に思い切り赤線が横切っている。その強引な図案に惚れた。



ああ、残りも欲しい。



10月10日（1980年代後半）

---

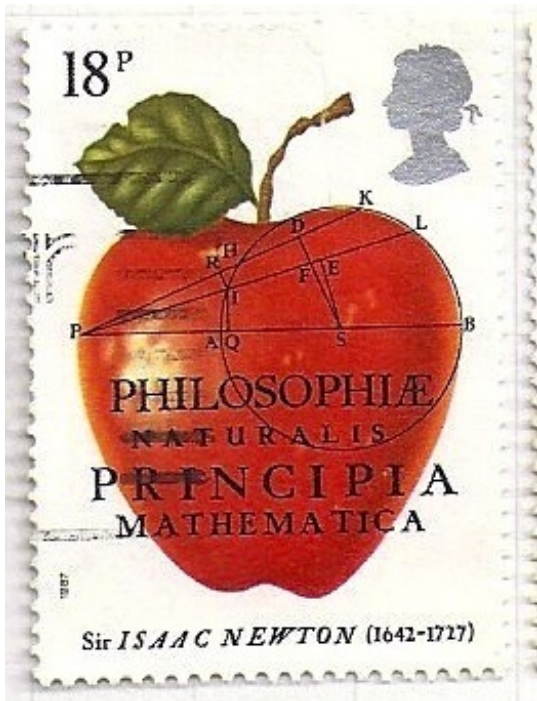
次に1985年発行のこちら、日本ではちょうどこの時期バブルに向かって上昇の頃か？  
映画スター5枚もの17P, 22P, 29P, 31P, 34Pの1枚、他の金額の流通具合が気になるが、31Pや34Pは手に入らないかな。それにしても何故素数や素数の2倍という金額なのだろう。

こういうフォトフラフ切手好き。写真をアートに高めている。画像写りがいまいちで恐縮だが、現物は背景の黒と右上のイギリス切手を意味する女王の横顔の銀と右下のサインの金が、知的(?)な雰囲気醸し出している。



Peter Sellers（ペーター・セラーズ）というイギリスの喜劇俳優らしいが、残念ながら私は知らない。

同じく銀色女王の切手はこちら。1987年発行のニュートン記念4枚もの18P, 22P, 31P, 34Pの1枚。中心のリンゴがラブリーだが、残りの3枚はいまいち..... リンゴの代わりに天体やフラスコが描かれているが、全て揃えたいとは思わない。だけど、こういう切手に限って集まってきたりするんだな。



同じく1987年発行の陶芸家4枚もの、18P, 26P, 31P, 34Pの1枚。これ、ぱっと見「ふーん」という感じでさほど興味もなかったが、よくみるとBERNARD LEACH (バーナード・リーチ) とある。焼き物好きな私は「あ、バーナード・リーチ」と思った。イギリス人だけど、親日的な陶芸家で民芸調の作風は日本人にすれば親しみやすい。ということで、反応してしまった。



で、つい他の切手もみてみると31Pは、LUCIE RIE (ルーシー・リー) ではないか！ 数年前から日本でかなりブームになった女性陶芸家で、女性らしいパステルカラーの色彩とモダンな形の作品が多い。これは手に入れたい。マイセンとかヨーロッパの磁器はさほど欲しいと思わないが、こういう陶器系の作品は反応してしまう。

なんだかんだで、1980年代のイギリス切手のコレクションはまだ不完全であるが、散財を予感させそうなシリーズの切手がちらほらある。



10月16日（1994年と1995年）

1994年発行のSteam locomotives 5枚組であるが、これは4枚も手元にある。locomotiveとは蒸気機関車らしい。残るは41Pだが制覇できそう。ただ、シンプル過ぎて知らなければ切手とわからない。全部揃ったら額縁入れて部屋に飾る。



これも同じく1994年発行のゴルフクラブ5枚組で、30P, 41Pと入手すれば制覇である。ああ、ゴルフもまああ巧くてお金があれば楽しいだろうな。先の機関車ほど私を魅了しないが、アイデアは面白いと気に入っている切手である。



これは1995年発行「The time machine」4枚組の1枚であるが、他の3枚はカタログを見ると「futuristic society」「alien invasion」「space travel」とある。何かTV番組か何かだったのかな？ 調査不足であるが、人が時間の渦に飲み込まれていく雰囲気は何とも言えなく紹介してみた。



10月28日（1996年と1997年）

1990年代後半をしてみる。この辺から割とThe Britishな感じが表現されていないかな？

最初は26PのMargot Fonteynだけ持っていた。何のシリーズの1枚かよくわからなかったが、もう1枚やって来て察しがついた。そう、女性シリーズだ。各国、女性の偉人は切手のネタに利用されやすいが、それはそれで悪くない。ただ、やはり20PのDorothy Hodgkinと比較して、26Pバレエの方が素敵だ。先に20Pを手にしたら、このシリーズを気にしなかったと思う。



そしてこちら。今月の表紙にもなっている自動車5枚組の1枚。20P, 26P, 37P, 43P, 63P とある。敢えて各社の特徴がある正面の一部分しか映していないところが粋ではないか？ 「自動車と映画と料理は各国の文化を測る物差し」というアイデアが気に入っている私にとっては、気になるシリーズである。あいにく、メーカーの特定まで余裕がなくてできなかった。すみません。

これも全部揃えねば。イギリスのこういう切手が好き。



日本車なら、トヨタ、ホンダ、日産…… 残りはどこだ？個人的にはスズキも入れて欲しい。

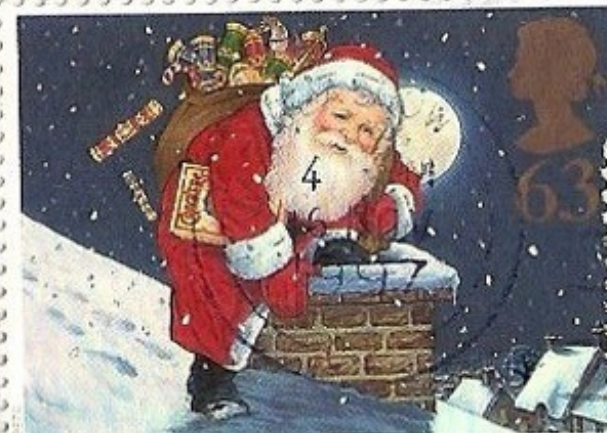
画像が不鮮明で恐縮だが、急にこの切手が刺さり込んだ理由は映画「ブーリン家の姉妹」を観たからである。その映画の詳細は記述しないが、イギリス史にとっては大きな関心事らしいヘンリー8世とその2番目の妻であるアン・ブーリンの物語。よくわからなかったヘンリー8世という人物の歴史的な位置づけがよく理解できた。ちなみに、ケイト・ブランシェット主演の「エリザベス1世」も併せて観ることをお勧めしたい。

で、こちらはその王と6人の妻、合計7枚シリーズの1枚。残念ながらヘンリー8世しかないが、アン・ブーリンは手に入りたい。



最後に1997年発行のクリスマス5枚組 2nd, 1st, 31P, 43P, 63Pから4枚。優しい笑みを浮かべる一方、厳粛な趣もあるお顔であるが、その行動はどこか子供じみている。きっと子供には優しいに違いない、しかし、実は結構エッチなサンタさんだったりして。





10月30日（スケッチブック）

---

とうとう行き着くところに行き着いたか？

アルバムが不足してきた。そもそも使用済みだし、さほど備品にお金をかける気もなかったし、こういう日常品（使用済み切手）は妙にスカしてアルバムなんぞに収まっているより、いっそのことギュギュッと何かのサンプル品のごとく貼込帳形式になっている方が、ワクワク感が盛り上がるのではと閃いた。

そこで、ハンズにワクワク感が盛り上がりそうなノートを物色しに出かけたのであるが、いざ様々な種類のノートを手にしてもなかなか閃いてこない。小さいというより、狭いのである。「狭い……」と頭をフル回転させていると、閃いた。「そうか、スケッチブックにすればいいんだ」と。こういう時のハンズは便利だ。早速スケッチブック売り場へ行くと、あるある結構種類が。絵を描けない私であるが、スケッチブックには憧れる。

これからはこれに、ギュギュッと使用済み切手を貼込もう。

1990



1991



1992





スケッチブックが大きすぎてスキャナーにおさまらなかった。今一つしっかりこない、迫って

くるものが乏しい。まだ検討の余地がありそうだが、とりあえず国別時代順に張込み、そのうち自分の好きなやつだけ集めたり、テーマ毎にまとめてみたり、貼ったり剥がしたりする。

今は貼ってもきれいに剥がせる糊がある。矛盾を現実化させた素晴らしい商品だ。やはりハンズは便利だし、こんなハンズが至る所にある都会はいいなと思う。

今月はやや消化不良気味で終わってしまったが、来月はじっくりひとつマイナーなところ、ポーランド（マイナーと言って失礼！）に取組もうと思っている。何か素敵な予感がするよ。